

かぞくてたのしい電車あてゲーム  
二年 はせべさう

わたしのかぞくがいつもたのしみにして  
いることがあります。それは、「電車あて  
ゲーム」です。

カンカンカン。ふみ切りの音がなっ  
てしゃだんきがおりはじめました。ゲ  
ームのはじまりです。

「かぼちゃ！」

とわたしが言いました。

「パパは、だいこんかな。  
とお父さんが言いました。」

「ぼくは、かぼちゃ、やっぱりだ  
いこん。」  
おとうとは、ころころすぐかえ  
ます。

「わたしは、ぎんいろ。  
お母さんは、だいたい、みんな  
が言っ  
ていな  
いものに  
します。」

このゲームは、ふみ切りを通る電車  
のもよ  
うをあて  
るゲーム  
です。黄  
色とみ  
どり色  
の「

かぼち<sup>ャ</sup>電車、クリーム色の<sup>ッ</sup>だいこん電  
 車、前にお父さんが、<sup>ッ</sup>パパが小さいとき  
 からこんなふうによんでいるよ<sup>。</sup>と教えてく  
 れました。電車にやさいの名前がついている  
 なんて、とてもおもしろいです。ほかにも、  
 わたしのかぞくが名前をつけたものもありま  
 す。よく通るぎんいろで赤や黄色の線が入っ  
 ているもの<sup>。</sup>のことを<sup>ッ</sup>ぎんいろ<sup>。</sup>、カタレ  
 やらいち<sup>ッ</sup>ようの絵がかいてある電車やテレビ  
 カートを<sup>ッ</sup>スペン<sup>。</sup>ル<sup>。</sup>とよんでいます。

わたしは、じ分が考えた電車がきてくれる  
 ように、

<sup>ッ</sup>かぼち<sup>ャ</sup>！かぼち<sup>ャ</sup>！

と大きな声で言っ<sup>。</sup>て、手をたたきます。おと  
 うとは、わたしよりも大きな声で言います。

ガタンガタン。電車がちかづいてくると、<sup>ッ</sup>  
 なんの電車がな<sup>。</sup>とむねがドキドキします。

電車が見えて、正かいかかると、車の中は  
 とてももり上がります。

<sup>ッ</sup>いえ<sup>。</sup>く<sup>。</sup>い<sup>。</sup>かぼち<sup>ャ</sup>電車だ<sup>。</sup>！

よそうがあたっ、たときは、とっ、てもうれしく  
て、これからいいことがあるし、うな気がしま  
す。し、だんきが上か、たら、ゲームはおし  
まいです。

わたしは、これからも、かぞくで電車あて  
ゲームをするのをたのしみにしています。つ  
ぎは、なんの電車がくるのかな。